

市民説明会における質疑応答について

○質問者1

耐震設計について、太陽光発電をつけるなどレジリエンス的な対応があるのかどうか伺いたい。

○藤本壮介 氏

地面の揺れを直接基礎が受けないように、ゴムで縁を切って揺れを和らげる免震構造を地下につくっています。免震構造で地面と縁を切っていることによって、地下鉄の揺れを同時に防ぐことができます。太陽光が屋根にすべてつくというわけではありませんが、様々な状況を想定して設計を進めています。

○質問者2

最高の生音と市長はおっしゃるが、2000席のホールはコンサートホールとしては大きすぎるというのが、音楽関係者、音楽興行関係者の中での基本的な認識。仙台フィルより大きい100人規模の世界の一流の楽団でも1500席程度。2000席のホールで多目的で、仙台フィルのように小さな楽団で演奏をすると音が乏しくなってしまう。

転換の問題もあり、途中で壊れたら50年持つかということもある。

転換機構が音響に与える影響があることは明らかで、永田音響では十分にシミュレーションできない新しいものだと思うが、問題ないのか。

○郡 市長

以前から、2000席規模の音楽ホールが欲しいという声、吹奏楽、合唱の全国規模のものを呼びたい、世界の大編成のオーケストラを呼びたいという要望が多かったところです。

最新の技術を用い、あらゆることを想定しながら生音により効果的なホールとなるべく設計を進めています。こうした施設を持つことによるオーケストラの質の向上、お出でいただく方々の拡大にもつながると思っています。

○藤本壮介 氏

大きくなれば音響が難しくなるのはその通りですが、永田音響からそのサイズゆえに何か問題が起こるということは聞いていません。空間の豊かさがそのまま音の豊かさになること、音の遅延それらに手当をして今設計をしています。

転換機構は、後ろ側がそのままバックステージの方に移動する、複雑でない作りとなっています。バラバラに分解されるのではなく、後ろ側の席がそのまま水平移動する、かなりシンプルで故障が少ないのであります。さらに可動部の分割が少ないので、音響に与える影響は少ないと考えています。

○質問者2

宮城県の2000席ホールが具体化する前から、仙台市では2000席ホールをつくってほしいという要望があったということと理解した。しかし県において、吹奏楽や合唱コンクールの全国大会は代替可能で、予算も高額という状況で、あえて作らなければいけない理由は。

○郡 市長

2000席規模のホールについては、知事、また事務方同士でも話をしています。令和2年度に行った需要想定調査においても、2000席規模のホールが併存しても十分な需要が見込まれるとされるところです。需要調査もでていることなので、大丈夫と思ってつくっているところです。

○質問者3

世界に誇れるコンサートホールということだが、サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホールと比較して決定的に欠けているのはパイプオルガンがないこと。2000席規模のホールのアンケートの時にも、そうした要望があったと思う。

○郡 市長

要望の詳細が手元にないので把握できませんが、受け止めさせていただきます。

○質問者4

ひとつ目は、可動式で成功しているところは聞いたことがないため、懸念している。良いホールができれば、日本中、世界中から人が来る。ホールの評価は開館後3か月もすれば定まってしまうので、音響について徹底的にこだわっていただきたい。2000席のホールは賛成。

二つ目は、パイプオルガンは必須。大規模なオーケストラにはパイプオルガンが絶対必須だと考えている。

○質問者5

2000席は大きすぎる。1500席規模、固定式に賛成。先日、クリスチャン・ツィメルマンという大ピアニストのピアノ・リサイタルがあったが、東京エレクトロンホール宮城で一階席だけ使ってそれでも満席にならない。多くの劇場に通っているが、1500席より着席数が必要なコンサートは市内で年間に何回もない。こうしたコンサートは新県民会館でやってもらえば良い。最高のコンサートを最高の場としての適正な規模というのは1500席なのではないか。アマチュアオケが使うにも躊躇してしまう。川内萩ホールも1200席程度であるため、プロ、アマ、聞く人にとっても最高の規模は、やはり1500席程度と考える。

○質問者6

ひとつ目は、548億円は安くない金額だと思うが、鹿島建設のホームページを見ると、維持費、壊すまで2000億以上かかると思う、他の施設の維持改修もある中で、これだけの費用を出す覚悟があるのか。

二つ目は、未来という発言があったが、未来を考えるなら子どもたちを考える。市の給食費の補助は2割、福島市は4割、無償の方向。子どもの貧困などの問題がある中で、ここに600億の金をかけて建てる意味があるのか。今は548億円だが、あっという間に10億20億30億と上がっていくと思う。それを含めて建設する意味があるのか。

○郡 市長

ご心配の声は理解しています。先ほど申し上げましたが、この施設は子どもたちを含めて学びの場にもなり、ひとりひとりがどのように発信をしていけるものなのかということを考えうる施設になると思います。子どもの教育の場、福祉的な場、芸術的な見地からもとても必要な施設であるという考えです。施設整備に係る費用は、先ほど申し上げたとおりで、色々考えながら進めているのでご理解いただきたいと考えております。

○質問者7

公表資料を見ると、進行表では11月に基本設計案が完成できるはずが、なされていない。他の協力を得て、この遅延を民間に換算した金額を提出したい。

○郡 市長

藤本さんの方で、市民の皆様と意見交換をしていただき、丁寧に設計を進めていただいた結果だと考えています。当初の予定よりは遅れていますが、十分に市民の皆様に喜んでいただける施設になるよう進めているところです。

○藤本壮介 氏

当初の期間より遅れているところがあり、ご心配をおかけしていますが、市民ワークショップ等で市民の皆様とやり取りをする中でしっかりと設計をつめていくということを念頭において進めております。今後も設計をつめていき、当初の開館スケジュールに支障がないよう取り組んでまいりたいと考えております

○質問者8

市内でコンサートやイベント関係の仕事をしている。先日、我々の業界、テレビ局の事業部と説明会に参加したが、誰一人として使いたい、こういうことをやりたい、魅力があると手を挙げた人がいなかった。それは市長に届いているのか。

○郡 市長

申し訳ありません。私は初めて伺ったところです。

○質問者8

何度か集められて、説明会に参加しているが、全然意見が反映されていない。忘れた頃に呼び出されるという感じで、担当の方は一生懸命やっているが、ただ会が催されているだけで上に声が上がっていないうといふのは問題なのでは。

○郡 市長

関係者を集めて、様々な場所で説明をしているものと承知をしていますが、詳細については聞いていないため、局長からお答えいたします。

○文化観光局長

現在、設計中間案をまとめたという段階ですが、これまで音楽関係者、プロモーターの方にお話を聞いてまいりました。中間案発表以後、順次、説明やお話を伺っている途中の状況であったため、市長に報告をしていなかつたのは申し訳ございません。我々としても藤本さんとより良いものをつくっていきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

○質問者8

次回の会議は、市長もお時間あればご出席いただきたい。

○質問者9

当初案と比較してだいぶ改善された。意見が反映されたことに対し大変感謝している。

ランドスケープについて、かなりアクティブで良いが、守るべきものもある。

川内は水はけがよくない。仙台二高、東北大がある文教地区。ジャズなどやりたいということが出ているが、文教地区ということを考えて、音の出し方含めてランドスケープを進めていただきたい。

○忽那裕樹 氏（※基本設計業務関係者）

音の出し方など、運用の問題を考えていただけたらと思っています。静と動の空間で活動ができる。ある意味分けていく。音を出すルール、デシベルでコントロールをする。そのあたりが屋外の舞台をつくるうえでは重要です。少しアコースティックなこともやれる話と、森の環境での音楽会で動植物にどれだけ影響があるかも含めて調査をしながら進めています。水が止まるというのが自然環境で一番ダメなことなので、水みちを確保しながら、河川空間だから気を付けないといけないという話はできる限り取り組んでいきたいと考えています。

○質問者9

東北大川内キャンパスの図書館に勤めていたことがあったが大雨のときに、地下の書庫に水があふれて20センチぐらい水がたまつたこともある。そういう地盤であることへの配慮が必要である。災害文化拠点と言っているが、防災を前面に押すべきではないかと考える。仙台フィルが震災後1000回以上コンサートを行ってきたという前提がある。楽都仙台として前面に出すべきではなかったのかなど。災害疲れ、365日災害文化だと言って押しつけにならない配慮が求められる。

○郡 市長

災害があっても乗り越える力ということを申し上げましたが、それは多岐に渡ると思っています。今、フェイズフリーの状況で何ができるのかということもあります。災害が起きたことを想定してどうするかのみではなく、様々な活動のことを指しながら、災害文化という風に言えると認識をしています。国際センターでは毎年3.11近辺に開催している仙台防災未来フォーラムで、企業の方を含めて様々な素晴らしい発言、展示をしていただいている。そこには、辛いものだけではなく、前向きなものもたくさんありますので、そういうことも含めて申し上げたいと考えております。

今後も、災害文化をより理解していただけるよう発信してまいります。

○質問者9

楽都、劇都それぞれ歴史がある。その歴史をつなぐものにしていただきたい。

○質問者 10

劇都とまで言いながら、仙台に来る公演は飛ばされている。2000席は広すぎる。あんなに奥まっている演劇ができないし、プロセニアムが演劇のすべてではないし、演劇のことが考えられていない。コンサートホールに特化するなら、市民会館の改修などを考えてほしい。

○藤本壮介 氏

演劇も十分対応できるフライタワーの大きさと座席の配置になっているので、ご安心いただければと思います。

○質問者 10

規模が大きすぎる。

○藤本壮介 氏

2000席というのが、逆に大きな催し物が仙台に立ち寄ってくれる基準になるのでは、という判断があったと聞いています。